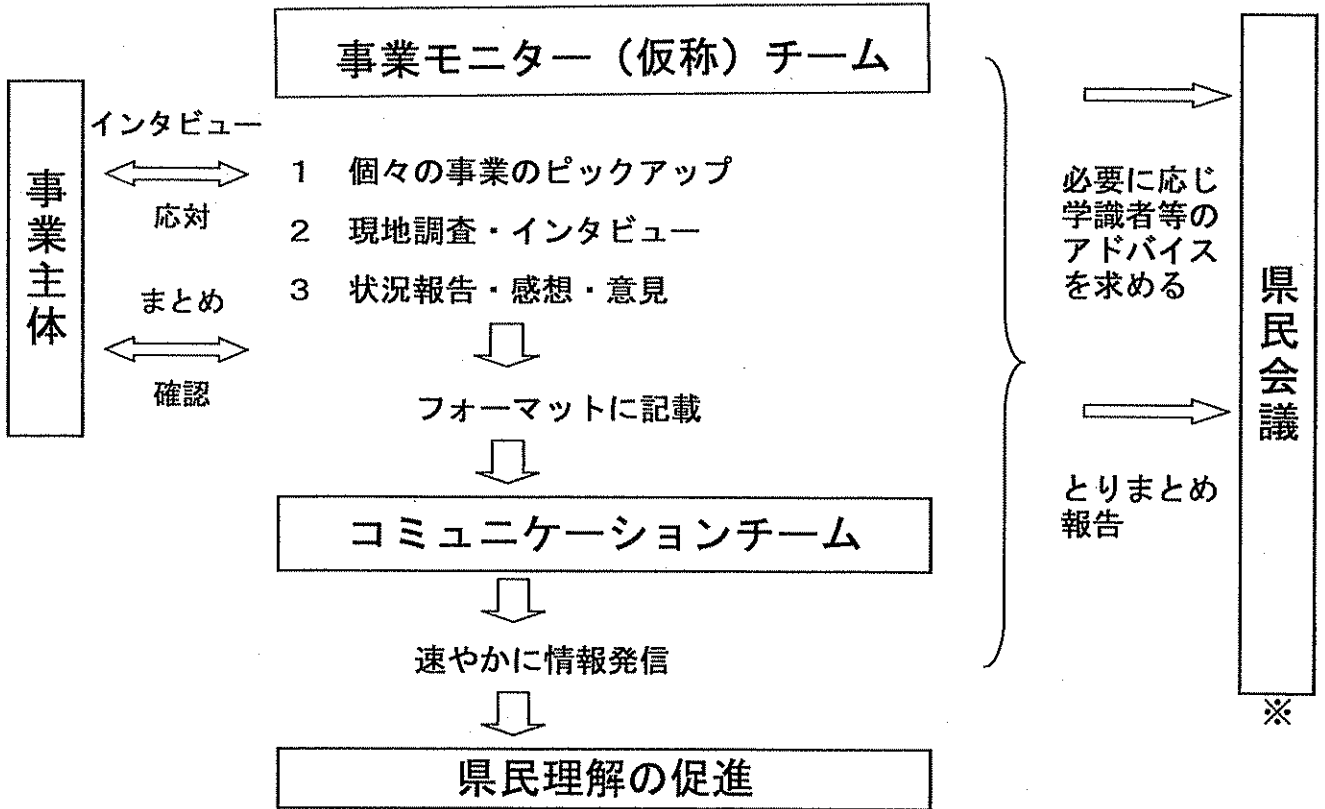


(仮称) 水源環境保全再生事業モニターチーム たたき台

チームの役割：個々の事業の状況を県民の目線でモニタリングし、その結果を発信することにより、県民理解の促進に資するものとする。



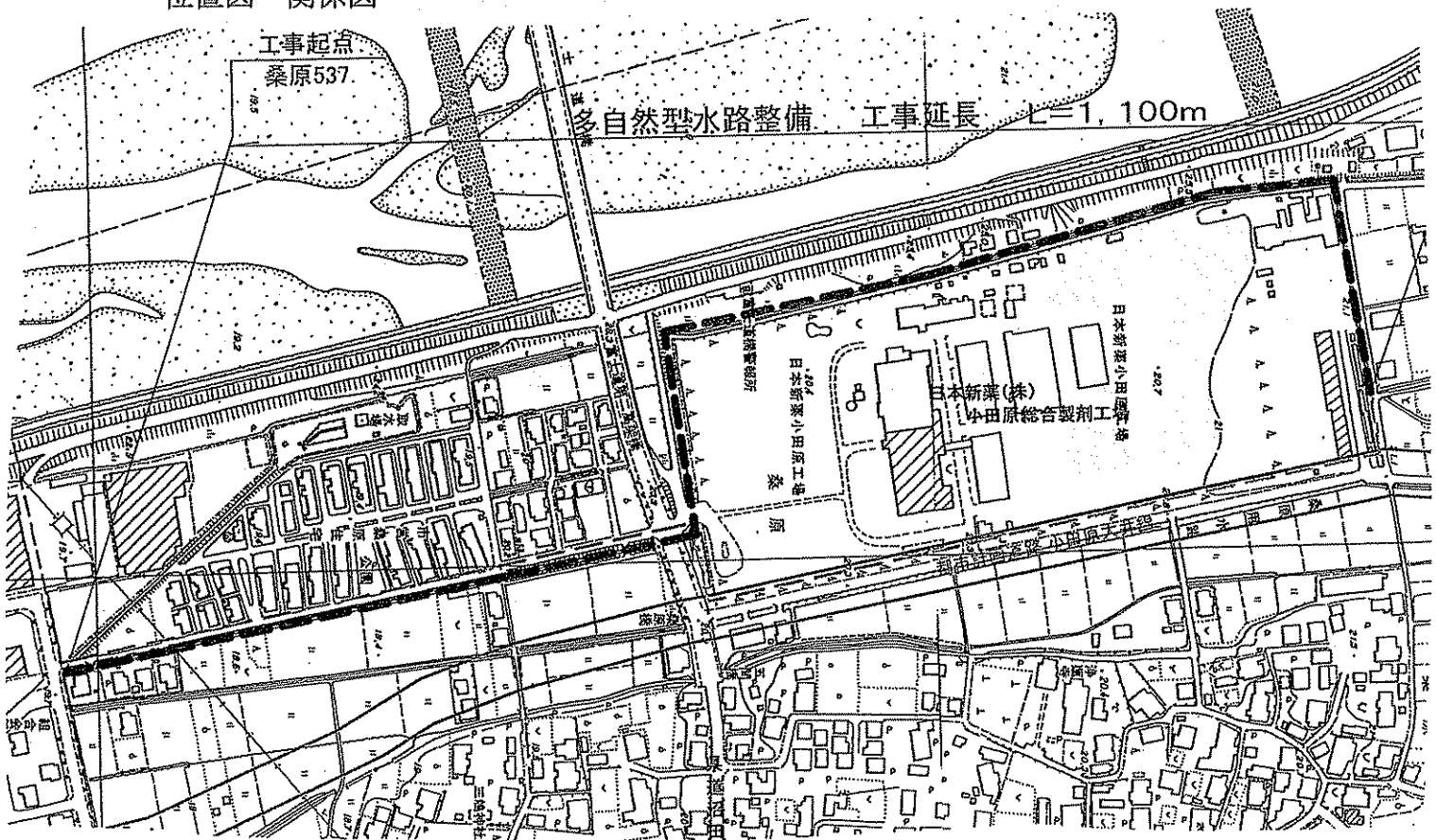
※ 最終的には施策調査専門員会の検討報告に応じ、県民会議での施策議論を深めることに資する目的も持つものとする

- 1 事業モニターチームは森チームと水チームの2班編制とする。
- 2 1回のモニタリングにつき特別対策事業の1事業につき1～2箇所を対象とする。
- 3 個々の事業のピックアップの方法は、金額や面積が多いものとする。
- 4 平成20年10月ごろまでに9つの個別事業についてモニタリングする。

水源環境保全再生事業現地インタビュー紹介表 記載例 (案)

事業名	6 河川・水路における自然浄化対策の推進 ① 生態系に配慮した河川・水路等の整備			
事業の実施主体	小田原市			
実施場所	小田原市桑原847地先から537番地先 (酒匂川支流 鬼柳桑原用水路)			
調査日時	平成19年9月12日 午前10時～11時			
調査者	水調査・学習会チーム (〇〇・〇〇・〇〇)			
対応者	小田原市環境対策課 〇〇			
	神奈川県：土地水資源対策課 〇〇			
事業内容	ねらい	都市計画道路の整備により消失する水路を、延長約1,100mにおいて、既存素掘り水路を活用しながら自然法面を基本とした水路を代替整備することにより、環境バロメーターともいえる野生メダカやその他の動植物の生息環境を再生、保全するとともに、水循環機能の向上を図る。		
	内容	都市計画道路小田原大井線建設に伴い排水ボックス水路化される自然水路を、多自然水路（農業用水路）と排水ボックス水路に分離し、自然法面を基本に間伐材等を使用した杭柵護岸や多自然型ブロックを適所に使用することにより水路の再生、保全整備を図る。 酒匂川支流 鬼柳桑原用水路 約1,100m		
予算		平成19年度 (当初)	平成20年度 (想定)	平成21年度 (想定)
	総事業費	110,525	1,320	872
	内超過税充当分	110,525	1,320	872
	国庫補助金	0	0	0
	市町村独自財源	0	0	0
	その他	0	0	0

位置図・関係図



写真

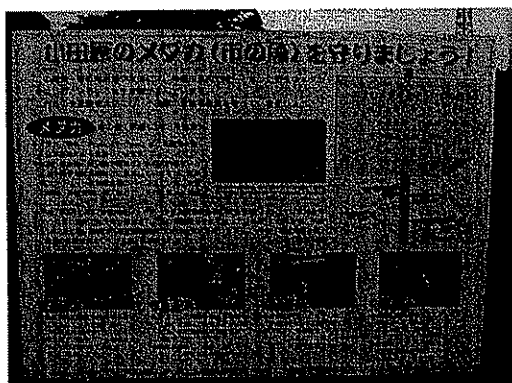
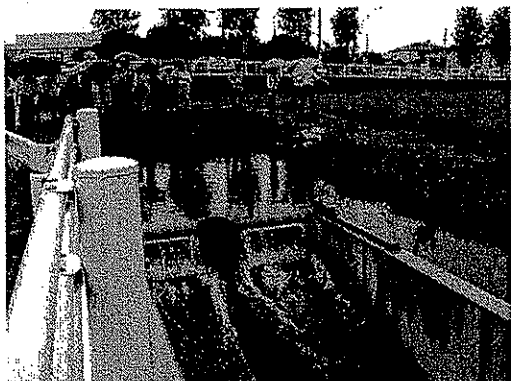
【河川等の自然浄化対策の取組について】



(概要説明：小田原市さん)



(鬼柳桑原排水路を歩く)



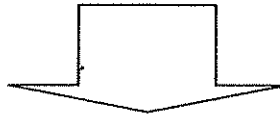
事業の進捗状況	平成19年度：工事完了予定であるが、下流域の排水ボックス（この財源の対象外）は、ほぼ完成している。今後、多自然水路に取りかかる予定。 調査時点では、設計をしている段階で工事自体は未着手の状況。 20年度には、移設していた動植物を多自然水路に移設を行い、事業効果を確かめる水質調査等モニタリングを行う予定。
地域との関係	平成〇年以降都市計画道路の開設に伴う小田原メダカ等の保全方法について協議を重ねきており、本計画もその一環として行われるものとなっている。
モニタリングの状況	工事着手前に水質（BOD、PH、SS、温度）及び動植物を測定。 次年度以降平成23年度までに年2回の水質調査と年1回の動植物を予定。 調査時点では未測定であった。

質疑応答	〇〇委員	同じ水を排水ボックスと多自然水路と分ける計画だがどのようなやり方をとるのですか？
	小田原市	通常は多自然水路に水が流れるようにし、台風など大雨の時は速やかに排水できるよう上流部で操作できるようにします。
	〇〇委員	大雨の時は、魚などが流れないように工夫は出来ますか？
	小田原市	人工のビオトープを作り、ここに遊水機能を持たせます。
	〇〇委員	新しい川を作る場合、河床の土をすくってしまうと自然回復力が弱くなるし、保水機能もなくなってしまうおそれがあります。どのようなやり方で作るのですか。
	小田原市	現在ある水路の土をある程度保全しておいて、それを新しい川に移設します。また、動植物も一時保全して移植します。
	〇〇委員	酒匂川の土手のところを流れる計画ですが、土手の法に生える高木などは保全していくべきものだと思います。
	小田原市	市としても、重要な場所であるという認識はありますが、民地になっており、安定的に保全する状態にはなっていません。
〇〇委員	土地を買収する場合この財源は使えないのですか。	
川県	水が直接流れる場所については、この財源を使えるようにしています。しかし、土地代は非常に大きなお金がかかるので、周辺の土地の買収費には使わないよう市町村へはお話ししています。	

感想・意見

〇〇委員	小田原メダカを守ろうとしている地元地域の人たちとも協力関係が出来ており、将来的に良好な保全状態が望まれると思います。 酒匂川の合流地点までどういう形で保全できるのかが今後の問題だと思いました。
〇〇委員	きめ細かなモニタリングを行う予定であるが、本当に小田原メダカなどが再生する状況になるのか長い目で見守っていくことが必要であると感じました。
〇〇委員	土地の買収費は確かに多額になるが、水源環境を守るうえで真に重要な場所であれば、この財源を充ててもよいのではないかと思います。
〇〇委員	
〇〇委員	

※ 関係図書等の添付



コミュニケーションチームの提案に基づく県民への情報提供による発信



県民会議の全体施策見直し等の議論